

## 青森明の星短期大学

### 2024 年度 自己点検・評価報告書

No.	点検部署	頁
1	保育専攻	P. 2
2	コミュニティ福祉専攻	P. 3
3	教学部	P. 4
4	事業部	P. 5
5	学生部	P. 6
6	入試広報部・入試広報課	P. 7
7	キャリア支援部	P. 8
8	総務課	P. 9
9	教学就職課	P. 10

部署名	保育専攻
<b>1. 重点事項</b>	
① 項目	<p>1.2024 年度の継続課題</p> <p>① 幼保英検の対応の充実及び小学校英語準認定指導者資格の科目及び年次配当の変更への対応</p> <p>② 実習先（保育園・認定こども園・幼稚園等、施設）との意見交換会の実施（改善・進展）</p> <p>③ 付属幼稚園との連携事業の推進</p> <p>2.教学に関する重点課題</p> <p>・保育実践演習の内容の見直し</p> <p>3.下北学生の資格取得等の環境改善</p> <p>4.高大連携等の募集に関する活動</p>
④ 目標	<p>1 ①幼保英検対策を課外のみならず授業にも含め、支援体制を整備する。</p> <p>1 ②実習先（保育園・認定こども園・幼稚園・施設）との意見交換会を継続して実施し、現場と養成校の教育的な連携関係を築いていく。</p> <p>1 ③空き教室を利用した子育て支援の開設、学生と付属との交流の増進。</p> <p>2 次年度に向けた内容の見直し及び下北生の発表を対面で可能とする。</p> <p>3 バス運行日程以外での下北生の資格取得等への便宜をはかる。</p> <p>4 「保育の魅力発信！プロジェクト」に協定校の生徒さんの参加の実現。</p>
⑤ 取り組み	<p>1 ①前任者との引継ぎを行い、試験対策等の充実を図る。</p> <p>1 ②前年度での改善点を活かし、話題及び情報提供等の充実をはかる。</p> <p>1 ③プレイルームの周知・実施、また授業等を通じた学生の交流を行う。</p> <p>2 WG を中心に内容及び発表の形式の多様性について検討する。下北生が遠隔ではなく青森に来て対面で発表ができないか、全学的に検討する。</p> <p>3 週末の資格試験等に交通手段がない下北生に対し、救済体制を整える。</p> <p>4 高校生（協定校）の参加が実現するよう、実施に向けて試行錯誤する。</p>
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
<p>1 ①今年度は、幼保英検の受験希望者 2 名に対し、個別対応により支援を行った。</p> <p>1 ②実習先と意見交換を実施し、現場同士及び養成校との情報共有を図り、課題を確認した。</p> <p>1 ③付属との連絡体制、授業を通じた学生の交流、プレイルームの開設協力等成果が見られた。</p> <p>2 保育実践演習の内容の見直しを図り、対面での発表を今年度から実施することができた。</p> <p>その他科目の見直しを図り、子どもと音楽表現Ⅰ・Ⅱに関しても授業回数の改善を図った。</p> <p>3 下北学生の資格試験等に対し、寮の便宜を図り、救済体制を整えた。</p> <p>4 協定校との保育イベントへの高校生の参加については、申し込みがなく実施に至らなかった。</p>	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先からの意見や要望に対し、授業での取り組みや卒業後支援等を引き続き実施していく。</li> <li>・学生の課外や地域での学びの機会や環境を工夫し、引き続き学びの環境の充実を図る。</li> <li>・その他（今後の方針に対応し、更に検討していく。）</li> </ul>	

部署名	コミュニティ福祉専攻
1. 重点事項	
①項目	<p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い介護福祉士の養成</li> </ul> <p>【キャリアビジネスコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記・ICT・語学力の3本柱によるビジネススキルの育成</li> </ul>
②目標	<p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的介護技術習熟と介護福祉士試験の合格</li> </ul> <p>【キャリアビジネスコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計サポートのウェブ学習システムを活用した日商簿記検定3級並びにMOS Associate 全員合格と日商簿記2級挑戦者の合格</li> </ul>
③取り組み	<p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より実践的な通常授業に加え、模擬試験、受験対策授業、個別補講にわたる万全の体制での指導</li> </ul> <p>【キャリアビジネスコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブ授業や個別指導を取り入れた上級学習者への指導体制の強化並びに遅延学生への適切な指導</li> </ul>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的介護技術習熟については、最新の知識・介護技術を習得するためにさまざまな福祉機器を活用した授業の展開や、介護現場で実践している外部講師による授業などを行い質の高い授業を展開した。</li> <li>・介護福祉士国家試験の合格に向けて、2年生前期に受験対策のための授業を行うとともに、模擬試験を実施し、結果や個々の進度に合わせた補講や面談を実施した。また、1年生についても、介護福祉士国家試験を意識した授業を展開した。</li> </ul> <p>【キャリアビジネスコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日商簿記2級3名合格した。中でも1年生で1名合格するなど、意欲が高い学生がいた。反面、例年になく学習意欲が低く、1年生の日商簿記3級の取得率が、昨年度80%に対して16%と次年度へ向けての課題が残った。</li> <li>・キャリアビジネスコースの特徴や新しい試行など、このコースをどうしていくかコース員が意見を出し合いながら、学生の出口の保証へ向けて話し合いを持つことができた。</li> <li>・コース会議を2週間に1度設定し、進捗状況や情報交換をするなど、風通しの良いコース関係を構築することができた。</li> </ul>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の内容の充実を図るとともに、介護福祉士国家試験合格に向けた受験対策授業や模擬試験を継続して実施していく。</li> <li>・配慮が必要と思われる学生に対しての個別指導及び面談を実施していく。</li> </ul>	

## 【キャリアビジネスコース】

- ・年次の始めに学習の仕方について確認し、さらに授業においても進捗度を確認しながら指導をしていく。
- ・キャリアビジネスコースの特徴を前面に出しながら、校外活動に積極的に参加させていく。

<b>部署名</b>	教学部
<b>1. 重点事項</b>	
①項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教学マネジメント計画による点検・評価</li> <li>②初年次教育の充実に向けた共通基礎科目の充実</li> <li>③図書館の充実</li> </ul>
②目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①DP 達成に向け、体系化した実施計画を示し組織的にマネジメントサイクルを回す。</li> <li>②初年次教育に必要と考えられる学習方法等の習得の充実を図る。</li> <li>③図書館来館利用者数と貸出冊数の充実を図る。</li> </ul>
③取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員全体で教学マネジメントの必要性を理解し、1人ひとりが教育の質の向上を目指して取り組むことが出来るようにマネジメントサイクルを展開していく。</li> <li>②学修等アンケートや授業評価アンケートを参考にして、更なる授業内容の充実を努める。</li> <li>③学生の利用ニーズを把握し、受入図書や受入雑誌の見直しを行う。また、掲示板等を活用し情報の発信を行い、魅力ある図書館を目指す。</li> </ul>
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①カリキュラム委員会と連携して、教職員全体で教学マネジメントの必要性を理解し、1人ひとりが教育の質の向上を目指して取り組むことが出来るようなマネジメントサイクルの流れができた。</li> <li>②初年次教育の充実に向けた共通基礎科目の授業内容の見直しを図り、授業を実施した。</li> <li>③図書館来館者数については前年度とほぼ変わらないものの在籍学生数に対して考えると増加傾向と考えることができる。図書貸出冊数については、今年度分1月末時点においても前年度比139%となり、来館者数が横ばいにも関わらず冊数を伸ばすことが出来た。受入図書や受入雑誌については、各専攻や利用学生のニーズの聞き取りと声かけによる購入希望申込等で見直しすることが出来た。</li> </ul>	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①カリキュラム委員会と連携して、1人ひとりが教育の質の向上を目指して取り組むことが出来るようにマネジメントサイクルの見直しを図りながらサイクルを展開していく。</li> <li>②地域ボランティア、フレッシュマンゼミともの通年科目として実施する。</li> <li>③今年度以上に掲示板とLinyを活用し図書館の魅力を伝え、利用者、貸出冊数を増やす。また、授業との連携を図り、求められる図書の把握に努める。</li> </ul>	

<b>部署名</b>	事業部
<b>1. 重点事項</b>	
<b>① 項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学内 FD、SD 研修の企画・運営</li> <li>②地域連携と生涯学習センターの運営</li> <li>③高大連携と大学間連携</li> </ul>
<b>②目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員の組織力、授業力、教育力を向上させるための研修を行う</li> <li>②行政や団体等との連携事業や公開講座等を実施し地域との連携を深める</li> <li>③学内資源の活用を通して高校、他大学との連携を深めるとともに情報共有を通し、共通の課題を明確にする</li> </ul>
<b>③取り組み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員に必要な研修内容を精査し実施する</li> <li>②各事業において関係機関と連絡を取り合うとともに、部員内での情報共有をおこない、早めに計画を立て実施する</li> <li>③高大連携、大学間連携が推進されるよう、事業内容の充実と、周知方法の工夫をする</li> </ul>
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
<p>①今年度は、FD 研修「学修成果の可視化」、SD 研修「コンプライアンス研修」、共同 FD「本県における発達障害者の状況について」を実施した。いずれの内容についても、組織力向上、学生支援や教育力向上を目指したもので、教職員の資質向上に貢献した。</p> <p>②地域連携事業では、中泊町 3 件、高大連携 2 件、中学校見学 3 件、その他イベントやボランティア等の活動が行われた。出前講座（26 件）、歌の講座（2 件）、リカレント講座（2 件）、公開講座（1 件）が実施された。公開講座は、多くの参加者があり、地域社会への学びの提供ができた。</p> <p>③大学間連携では、高校側のニーズを具体的に知ることによって、本学が提供できる講座を明確に提案した。</p>	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員の組織力、教育力の向上を図るための研修内容を計画する 教職員が、学生の主体的な活動を支援できるような内容も検討する</li> <li>②イベント参加や、ボランティア活動を通して、地域との関わりを深め、地域貢献するとともに、学生の学びの機会を提供していく</li> <li>③高大連携、大学間連携とともに、多くの方に情報を提供し学びの機会を提供していく</li> </ul>	

<b>部署名</b>	学生部
<b>1. 重点事項</b>	
<b>① 項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 課外活動の活性化による学内および地域交流の推進</li> <li>② キャンパスライフの充実化を目指した各種支援・連携</li> </ul>
<b>② 目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学友会活動の企画運営を後方支援し、学生間および近隣地域との交流推進を図る。</li> <li>② 多様な学生のニーズを的確に抽出し、各部署とも連携しながらキャンパスライフの充実化を推進する。</li> </ul>
<b>③ 取り組み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生による学生のための活動支援をモットーに、各種イベントの企画運営にくわえて、ボランティア活動などを通して学内外の交流を促進できる環境を整える。</li> <li>② 学生からの意見や要望（学生生活アンケート・目安箱など）をもとに、学生生活の実態を的確に捉えたいえでニーズに応える。さらに、学生相談室と連携してメンタルヘルスケアの推進、及び奨学制度や事務室での各種相談対応を通して学生アメニティの充実を図る。</li> </ul>
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
<p>①学生祭をはじめとした各種イベントの企画・運営に際し、学友会活動が精力的に展開されるように学生を後方支援した。各イベントにおける出席率は90%を超え、すべての活動で前年を上回る結果となり、学生祭では462名（一般含む）を超える参加者で盛況のうちに終えることができた。学生祭での協賛・広告関係で近隣の企業へ出向いたほか、ボランティア活動の促進など、課外活動を経て学内外における交流推進をもたらすことができたと捉えている。</p> <p>②過去の学生生活アンケートや目安箱の結果を精査し、学生のニーズに応えうる改善策を検討した結果、昼食時に利用する電動ポットの設置（1号棟）を実現した。また、花王㈱と連携のもと、生理用品を女子トイレに設置して学生アメニティの向上を図ったほか、実際に発煙筒を使用して避難訓練を実施するなど、これまでにはない試みを導入した。なによりも奨学制度など学生からの各種相談対応に関して、窓口業務を懇切丁寧に行うことで、学生が安心して相談に訪れることができる環境の整備を推進することができた。</p>	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
<p>①学友会の人間関係や負担過多を軽減する関係性の在り方を念頭に新体制を構築する。体育祭の会場移転や学生祭の日程など、今年度の反省を踏まえながら学生たちのキャンパスライフが、より一層充実したものになることを最優先に見据える。体育祭やクリスマスの集いでは学内交流を促進し、学生祭では地域交流にくわえ、近隣の高校生も巻き込める学外との交流が促進される活動を目指して、引き続き学生支援に尽力したい。</p> <p>②学生生活アンケートや目安箱に寄せられる学生のニーズを的確に把握し、学内環境の整備を進めることでキャンパスライフの充実化を図るとともに、学生たちが学外へ発信したくなるような本学の魅力を、学内から整えていくことで学生満足度の向上に寄与したい。</p>	

<b>部署名</b>	入試広報部
<b>1. 重点事項</b>	
<b>①項目</b>	①オープンキャンパス参加者および受験者の増加 ②高校生、地域における「青森明の星短期大学」の認知度の向上
<b>②目標</b>	定員充足率の増加
<b>③取り組み</b>	<p>○募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校訪問による高校教員との円滑なコミュニケーションを行うとともに、進路説明会や模擬授業などにより積極的に参加するとともに、業者による説明会だけではなく、事業部や専攻と連携し、本学の高大連携事業を活用し、高校生との直接のコミュニケーションの機会を増やす。</li> <li>・オープンキャンパス参加者の満足度を上げるため、内容を検討する。</li> </ul> <p>○広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な媒体で短大や各専攻の取り組みを発信し、本学への理解促進につなげる。</li> <li>・各専攻の取り組みや学生の様子をできるだけ多く発信するために、より情報共有を行う。</li> <li>・広報物やオープンキャンパスの告知等、適切な時期に行う。</li> </ul> <p>○入試</p> <p>アドミッション・ポリシーを理解した上での受験につながるよう、引き続ききめ細やかな広報活動を展開し、アドミッション・ポリシーに沿った入試を実施する。</p>
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
<p>目標である定員充足率の増加は達成できなかった。</p> <p>募集：OC、高校訪問ともに計画通り行われ、進路ガイダンスへも積極的に参加した。追加のOCを計画し行ったが、OC参加者、受験者ともに減となった。</p> <p>広報：テレビCM、SNSなど様々なメディアを活用して広報を行った。広報物やOCの告知等に関して、学内での情報共有をうまく進めることができず、適切な時期に行うことができないものもあった。</p> <p>入試：アドミッション・ポリシーを理解したうえでの受験につながるよう、OCや進路ガイダンス等で説明を行った。各入試は滞りなく、適正に行われた。</p>	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
次年度については、方針が決まり次第取り組みについて検討する。	

<b>部署名</b>	キャリア支援部
<b>1. 重点事項</b>	
① 項目	1 適切な進路選択と進路決定に向けた継続的なキャリア支援 2 進路開拓に向けた情報収集と説明会等の開催 3 進路相談業務の充実
② 目標	1 学生面談の実施による学生理解と適切な進路選択のためのタイムリーな支援 2 進路に関する資料提供と効果的な情報提供 3 各専攻・チューターとの情報共有と連携 4 卒業生に対するフォローアップ 5 利用しやすい進路指導室の整備
③ 取り組み	1 キャリアハンドブック等を活用した適切なキャリア支援 2 自分の生き方を考えるための授業内容 3 各専攻・チューターと連携した学生との面談 4 より実践的な活動の展開（企業研究・企業説明会の開催と推奨） 5 求人票・情報発信の工夫→電子システムによる発信 6 関係機関と連携した情報発信→ハローワークや各公共機関等 7 新卒者激励会・関東激励会の実施 8 進路指導室の整備
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
1 各専攻に応じたタイムリーで適切な支援に努めた。 2 キャリアサポートⅡ・Ⅰともに、学生の将来に対する気づきにつながる多様な内容を実施することができた。 3 学生の面談については、各チューターと情報共有しながら進めた。 4 今年度から自ら選択した企業研究を実践し、その後のレポート提出に取り組んだ。 5 求人情報等については随時電子システムで配信した。 6 関東・東北管内対象の激励会を実施した。参加人数は少ないものの有意義な時間を共有することができた。	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
1 学生の進路支援について、さらに学生個々に応じた適切なシステム作り（進路カルテ等）に取り組む。 2 学生面談については各専攻の特性に応じ各チューターと連携しタイムリーなタイミングで実施する。 3 キャリアサポートの授業内容についてさらにブラッシュアップする。 4 企業研究について、学生がさらに自主的に取り組むための工夫と支援をする。 5 卒後指導を充実させる。 6 激励会について、多くの学生に確実に情報提供できるような体制を整備する。	

<b>部署名</b>	管理課総務
<b>1. 重点事項</b>	
<b>① 項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 施設管理、環境整備</li> <li>2. 財的資源管理</li> <li>3. 会計業務</li> </ul>
<b>② 目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 校舎・施設設備等を整備し維持管理を適切に行う</li> <li>2. 固定資産台帳の管理を適切に行う</li> <li>3. 正確な会計処理</li> </ul>
<b>③ 取り組み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 施設設備等に関して、不備や故障等があった場合は速やかに対応及び修繕を行い、安心安全な学校生活ができるようにする。</li> <li>2. 財的資源の確認、管理を徹底し、学生、教職員が有効に使用できるようにする。</li> <li>3. 会計業務は、日常業務、月末業務、年度末業務と全てにおいて正確に適切に処理する。</li> </ul>
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 施設設備等に関して、水漏れ、故障等があった場合は速やかに調査、修理の依頼など対応し環境整備に心がけたが、老朽化による故障、修繕が次々に起こり頻度が多すぎた。</li> <li>2. 固定資産管理において、今年度はピアノ等の台数、所在確認を行い台帳の更新を実施した。</li> <li>3. 会計業務では、日常業務、月末業務ともに確認を徹底し、正確な処理を行うことが出来た。</li> </ul>	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 施設設備等の不備に対して安全面を優先したい。</li> <li>2. 引き続き財的資源等の確認、管理を徹底し、状況にあった対応を行う。</li> </ul>	

<b>部署名</b>	教学就職課
<b>1. 重点事項</b>	
<b>①項目</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修登録と授業対応</li> <li>2. 学生への福利厚生について</li> <li>3. 就職活動支援への対応</li> </ol>
<b>②目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修登録業務を速やかに処理し、授業運営を適切に行えるようにする。</li> <li>2. 保健室担当教職員が不在の状態における未病状態（発病には至らないものの健康な状態から離れつつある状態）の学生への対応を模索する。</li> <li>3. 適切な進路選択、進路決定に向けた支援の実施。</li> </ol>
<b>③取り組み</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修登録作業をミスなく行い、速やかに各部署に履修登録状況などの情報を提供して履修指導に役立てる。また、履修登録の変更作業や履修確認を行い、各授業科目の履修者を確定させ、授業運営が適切に行えるよう取り組む。</li> <li>2. 保健室で休養することで状態が改善する、いわゆる未病状態の学生への対応について、情報収集をする。</li> <li>3. 学生が適切に進路選択できるように就職情報の収集に努め、求人情報の提供を速やかに行い、学生の就職活動支援に役立てる。</li> </ol>
<b>2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 迅速に効率よく履修登録作業を行った結果、速やかに各部署に履修登録状況などの情報を提供することができた。また、履修登録の変更作業と学生の履修登録漏れがないように履修確認作業も速やかに行い、各授業科目の履修者を確定し、授業運営が適切に行えるよう取り組めた。</li> <li>2. 未病状態の学生への対応について、情報収集を行ったが有益な情報を獲得するには至らなかった。</li> <li>3. 求人情報を速やかに学生へ Liny 等で提供を行い、適切な進路決定を促し、就職活動支援を行った。企業等からの求人情報を定期的に収集し、データベース化を更新した。求人情報の更新・整理を速やかに実施し、求人情報管理に取り組んだ。</li> </ol>	
<b>3. 次年度の取り組み予定</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 引き続き、履修登録業務を効率よく行い、速やかに各部署へ履修登録状況などの情報を提供し、授業運営が適切に行えるよう取り組む。また、学事歴に基づき、期末定期試験の日程調整、時間割作成などを効率よく行い、適切に試験が実施できるように取り組む。</li> <li>2. 未病状態の学生だけでなく、障害のある学生への対応についても他大学の取り組みなどを情報収集するよう働きかけていく。</li> <li>3. 施設・企業との連携を強化し、より多様な求人情報を提供する。</li> </ol>	